

36 森井家住宅



設計：不詳
施工：不詳
竣工：19世紀前半（江戸時代後半）頃
構造：主屋(茅葺) 軸組工法（伝統構法）
 付属棟 軸組工法
所在地：北区淡河町萩原



北区淡河町萩原に位置する茅葺民家です。萩原地区の集落は東西に流れる淡河川の両岸に形成された河岸段丘上に形成されており、集落の中心は淡河川と並行して県道38号線が通っています。

森井家住宅は萩原地区の西部に位置し、茅葺屋根の主屋、主屋の東側に付属棟、西側に塀と前栽を持つ典型的な中規模の農家の屋敷構えを残しています。また、周囲に視線を遮るものが少ないため、県道沿いからも茅葺屋根を望むことができます。

敷地の周囲を囲む農村の緑豊かな環境と、茅葺屋根の主屋を中心とした農村民家としての佇まいが一体となり、農村の伝統的な風景を現代にまで伝える貴重な景観資源となっています。

